

IPW デイに参加して

看護学専攻 3年 棟方竜一

群馬大学では、3年次にチームワーク実習という授業がある。看護学・検査技術学・理学療法学・作業療法学・医学を専攻している学生がチームを組んで、症例を検討したりする授業である。その目的とは、[共に学ぶ]という理念のもと、専門職間の連携・協働のあり方を学ぶものである。チーム医療は世界的潮流であり、その事を学ぶ意義は大きい。

チームワーク実習で運営委員をしていた縁から、去る9月26日に神戸大学で行われたIPW デイに参加できる機会を頂いた。IPW とは **Interprofessional Work** の略であり、「複数の専門職がそれぞれの技術と知識を提供しあい、相互に作用しつつ共通の目標達成を、利用者とともにめざす協働した活動」である。

午前に行われたセミナーでは、カナダから来た2人の学生によるもので、2人ともカナダにある学生組織で活躍されている方であった。同年代の人がこんなにも積極的に海外を出歩き、講演していると考えると、自分の未熟さを思い知った気がして、世界で活躍できるようになるという自分の目標をより奮い立たせてくれた。

午後からは、「体験型ワークショップ」に参加した。そこでは、神戸大学や神戸薬科大学の学生とチームを組んで、自己紹介・Tシャツの作成、車椅子のリレー・○×ゲーム・症例検討会を行った。群馬に戻ってきてから、参加者の名簿を見て気付いたことだが、IPW に参加していた神戸大学・神戸薬科大学の生徒はほとんどが1回生であったことに驚いた。IPW に関して自分の意見をしっかり持ち、積極的に発言を行い、同時に他者の意見を求めていたからである。自分が1回生のときは、そこまで関心が無く、IPW について深く考えたことが無かった。

神戸の夜景はとても綺麗で、約13年前に起こった阪神淡路大震災がウソのようであった。そこでは、人の力はどんなことに対しても可能性を秘めているのではないかと思った。

今回「IPW デイ」に参加して学んだことは、自分の考えに固執し視野を狭くするのではなく、さまざまな人に意見を聞き、自分の意見に対して根拠を持って述べることであれば、重要なことであるかである。多くの友達と遊んだり、朝挨拶したりすることもIPWの一貫であるのではないかと考えて、まずは自分にできることをしっかりやったいと思います。

最期に、今回同行して下さった検査学専攻の小河原先生と特色GP推進室の平出さん、サポートして頂いた後援会の方々に感謝しています。

IPW-Day2008 年に参加して

群馬大学 保健学科 検査技術科学専攻 吉岡拓哉

今回神戸大学で開催された IPW-Day2008 年に参加し様々な人や考え方に触れることができました。具体的にどのような事を体験して、様々な人や考え方に触れてきたかというところ、IPW-Day2008 年で実施されたプログラムは外国人講師による IPW (Interprofessional Work)、日本語訳では協働とは何か、どのように実践されていくかというような内容のセミナー、及び体験型ワークショップという題の基、神戸大学の学生達とチームを組みチーム T シャツの作成、車いすリレー、○×ゲーム、模擬症例に基づき各専門職で意見交換をして、IPW の日本語訳である協働の実践や各専門職間の考えを深めました。

外国人講師によるセミナーでは IPW、日本語訳でいう協働の実践について大切なことは学生がリーダーシップを発揮することが必要不可欠であり、さらに各専門職での協力及び持続力が必要であると講師の方は強調していました。特に、学生がリーダーシップを発揮することで最初は小さな波でしかないが、やがて大きな流れを作り、現在あまり日本に浸透していない IPW の考え方の波及、そして IPW の実践を実現させる力が私達学生にあるという言葉はとても私個人にとっては新鮮でした。なぜなら、自分にそのような大きな波を生み出せる力あるいは可能性があるなんて考えたことがなかったからです。さらにこのような力を最大限生かすためには積極的に何事も取り組むことが大切ではないかと思いました。私は今回のセミナーを聴講したことで、自分の持つ力や可能性を新たに認識し、何事にも積極的に取り組むことの重要性を改めて認識することができました。

また、体験型ワークショップという題の基に行われた活動では、互いに異なる職種でチームを組み様々な体験をしました。私のチームは医学科、看護、検査、作業、理学が各一人ずつおり、この異なる専門職の卵たちとチーム T シャツ作成や車いすリレーや○×ゲーム、模擬症例の検討を行いました。オリジナル T シャツ作成や車いすリレー、○×ゲームで最初は初対面ということもあり緊張しましたが、このゲームを通して緊張を解すことができました。そして、少しお互いのことを知りあった後に模擬症例検討を行い、互いの専門職の意見や考えを述べ合いました。その結果、専門職によって着目点が異なり様々な職種が一人の患者様に関わることで、見落としのリスクを軽減させ、よりよい医療の提供に役立つと再認識できました。しかし、一人の患者様に多くの専門職が関わることで様々なメリットもあるが、多くの専門職が関わることで見解の相違が生じ、問題を複雑化させるリスクや多くの専門職が関わっても見落としをしてしまう可能性もあるのでこのような問題点の改善が必要だとも感じました。

最後に、今回の IPW-Day2008 年に参加して、よりよい医療について神戸大学の学生たちと話し合いを持てたこと、普段聴講できない外国人講師によるセミナーなど貴重な体験ができました。このような素晴らしい機会を与えてくださった渡辺先生、小河原先生、平出さん、石川雄一先生をはじめとする神戸大学のみなさまに深く感謝しています。ありがとうございました。